

行事予定

★水生昆虫調査

7月28日(日) 午前9時～(午前中で終了、小雨決行・増水時は中止)

集合場所：ウッドフォーラム飛騨駐車場(清見町)

服装等：濡れても良い服装、水の中を歩ける靴かサンダル、タオル、帽子

今年も水生昆虫調査を行います。水中の石の裏にはどんな水生昆虫が潜んでいるか？水生昆虫を探しながら川の問題を考えるきっかけにしたいと思っています。

★アサギマダラマーキング会(チャオ御嶽スキー場跡地)

9月1日(日)(悪天の場合は8日)

集合時間：午前9時

集合場所：道の駅ひだ朝日村(集合後移動)

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、油性フェルトペン(黒・細書き)、捕虫網(貸し出しも有ります)

服装等：軽快な服と靴、日除け対策(帽子等)

★秋の里山こみちハイク・石仏探訪(上野から三仏寺城跡を目指します)

10月6日(日)(小雨決行)

集合時間：午前9時

集合場所：桜野公園駐車場(国府町)

持ち物：お弁当、飲み物、雨具、メモ用紙、筆記具、その他

服装等：軽快な服と靴(あればトレッキングシューズ)、帽子

※行事の問い合わせ先：

松崎(090-4214-5208、ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp)

粟畠峠—岩滝地区の人が高山へ出る時越えた峠

国土地理院の地形図に、高山市滝町と塩屋町を結ぶ点線があるのが以前から気になっていた。調べると、昔岩滝地区の人が滝川（大八賀川に合流）沿いに道ができるまで高山への往復に越えた峠であることがわかった（図1）。



図1

いちど滝町側から入ってみたが、碎石場跡で道がわからなくなり、あきらめて他日塩屋側から登った。

地形図には「栗の木」という喫茶店の横から道が入っている（写真1）。

すぐに動物除けの柵があり、開けて入らせてもらおうと左側に石の馬頭観音の石仏がおられ、拝礼（写真2）。

道は谷の右岸に真っすぐ東へ延びている（写



写真1

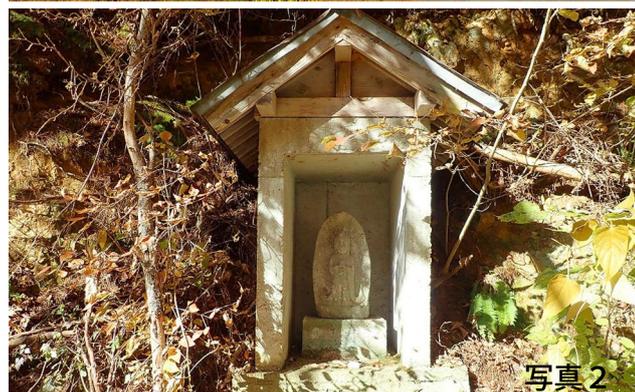


写真2



写真3

真3)。谷側には水田の跡が段になっており、その最上部にはほとんど埋まったため池があった。

約1キロで地形が平らな杉桧林になり、峠と思われる場所に出た。GPSで峠（740メートル）であることを確認（写真4）。

滝町側にもしっかりした道があったので下ってみた（写真5）。途中碎石場の断崖上部に出た（写真6）。旧道は掘削のため分断されており、断崖の縁のかすかな道を下って、閉鎖された事務所に降り立つ。このそばには、祠の中に不動様がおられた。ここからは車道を歩いて塩屋の駐車場所まで戻る



写真4



写真5



写真6



写真7

(写真7)。

喫茶店へ休憩に入り、ご主人（男性・69歳）から話を聞くことができた。

「そういえば峠の名前は聞いたことがないな」

「子供の頃、峠に我が家の桑畑があって、家族皆で桑の葉を背負って下ろしたもんや」

「途中の観音様は、昔荷車が谷に落ちて馬が死んだので、供養のため建てられたと聞いたとる」

帰路滝町へ寄って、Oさん（男性・88歳）と話すことができた。

「子供の頃にはもう下道（滝川沿い）ができとったんで、峠道は遠足で通るくらいやったな」

「岩滝の出征兵士の見送りは、下道の今の採石場あたりまで皆で行った」

「祖父が昭和6年に死んだ時は、葬儀の用具が背負われて峠を越えてきたと聞いたとる」

「わしも峠の名は聞いたことがないぜ」

地元で峠の名を知る人がいなかったので、調べて見た。

『飛騨國中案内』には「岩井村え行道あり、此間一里余にて峠道なり、【あわはたとうげ】と云ふ」、『飛州志』には「粟島峠鹽屋村ニアリ」とあった。



写真8



写真9

また『斐太後風土記』には「阿邦畑（アハノハタ）嶺鹽屋村より滝村へ越」とあり、粟島（あわはた）という小さい峠であることがわかった。頂上の広い地形のところが粟の畑になっていたのだろうか。

< 追踏査 > 地元で、昔の滝集落からの道は、今の採石場からでなく手前の小谷からと聞いたので他日入ってみたが、一部道の形状があったものの倒木がひどく、採石場まで出るのに難儀した（写真8・9）。

岩滝地区にはこの峠について、次のような不思議な話が伝えられている。

岩滝の人が高山で用事を済ませ、夜遅く塩屋からこの峠にさしかかると、後ろからドスン、ドスンという気味が悪い音が聞こえてきて、それが峠を下るまで続く。

しかし、なにものかに襲われたことが一度もなかったのに、人々は「あれは送りオオカミといって、夜遅く峠を越える人を見守ってくれているオオカミや」と言うようになった。

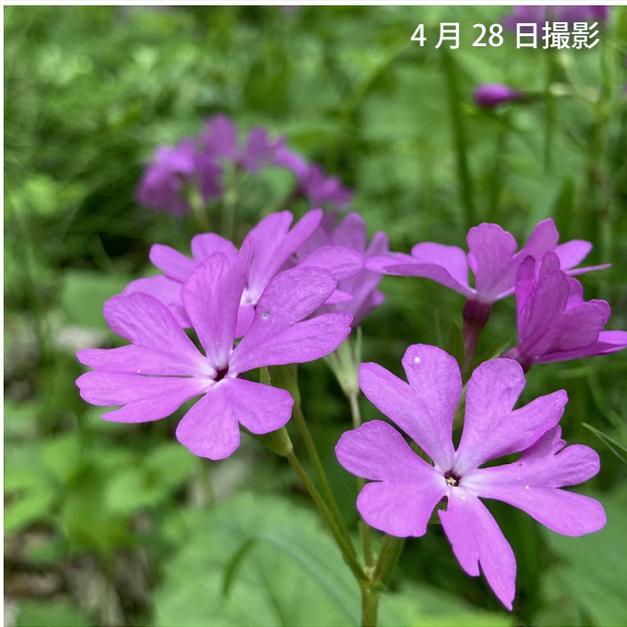
それからは、遅く歩いていてその音が聞こえても逆に安心するようになったという。

（『岩滝の昔話・いろりばた』高山市岩滝小学校発行）

踏査：令和3年11月6日

初出：令和5年4月1日発行『斐太記』31号

サクラソウ自生地の問題について



4月28日撮影

今年に入って、松本町のサクラソウ自生地に関してさまざまな動きがありました。時系列にまとめてみます。

まず最初に「飛騨びと楽校」の牛沢功共同代表に高山市の都市計画課から「松本町の持ち山を売りたいが、サクラソウがあり、移植したい人を探している」と相談がありました。その後飛騨びと楽校の活動に参加している直井清正さんに、牛沢代表から話がありました。

サクラソウ自生地は県下に一か所しかない事を気にしていた直井さんが牛沢代表と共に都市計画課を訪ねたところ、売却話がある山林は、高山市が保護地区指定している松本町の自生地である事が分かりました。

2月8日:野鳥の会飛騨ブロックの例会時に、直井さんからこの内容が会員に話されました。

2月19日:この話を受け、現在の市の認識と対応について直接市長と話し合おうと市長面談を申し込み、面談しました。残念ながら市長はギックリ腰ということで欠席され、副市長と都市計画課長・担当係長との面談となりました。当会からは直井、鈴木、佐藤、松崎(2人)の5人が参加しました。30分とうい短時間の面談でした。

我々からは、①移植は過去に清見町で行った事例があるが、失敗に終わっていること。②所有者が土地を手放したいのであれば、市が購

入できないのか。③高山市が保護区に指定したのは、故長瀬秀雄氏が松本町で発見したことがきっかけとなったもので、岐阜県では野生のサクラソウの自生地はほぼここだけらしいこと、等々を話しました。

市からは、①土地の購入は困難であること、②この地区は過去に保護地区指定をし更にカンアオイを移植しギフチョウの生息地になっていること、③今日話したことを土地所有者には伝える、等の回答がありました。

3月2日:当会の第22回定時総会が行われ、その場でこれまでの経緯を話しました。

4月2日:住之義さんからサクラソウ自生地の周囲の柵が傷んでいるとの情報が寄せられました。後日確認したところ道路に面した柵が壊れていたため、16日に直井清正さん、住之義さんと共に都市計画課に行き柵の修繕を依頼しました。その後環境政策課にも寄り、都市計画課との連携、情報共有をしっかりと行って欲しい旨申し入れました。後日、都市計画課から修理したとの連絡がありました。

4月21日:19日に、城山の大手門近くや、藤の木平遊園地、ウグイス谷にサクラソウが植えられ、柵で囲ってあるとの情報が寄せられました。21日に野鳥の会の探鳥会が城山で行われたおりに、大手門の近くで移植されているところを確認しました。簡単な柵で囲って草刈りをして植えてありました。都市計画課に確認した所、このサクラソウは岩手県産のサクラソウで一応野生種らしく市が市内の園芸業者から購入したものを植えたそうです。3箇所あたり約100株、1箇所あたり約30株になります。

4月28日:松本町自生地の道路に面した部分



4月28日撮影

は修繕が済んでいましたが、道路を挟んだ反対側の山際の部分でロープが弛んだり、柱が傾いている箇所があったので、当会の会員有志7名で直してきました。

今年のサクラソウはあまり花が多くない様子でした。

5月5日: 城山のサクラソウの移植地を見に行ってきました。移植後、何株残っているかと思い数えてみましたが30株数えられる所はありませんでした。

5月15日: 松本町の自生地へ行って見ましたが、ほとんど花は終わっていました。

5月17日: 自生地の面積などがわかる図面の写しを都市計画課から入手しました。

5月30日: 日本ナショナルトラスト協会にもサクラソウ自生地に関し、相談をしました。ナショナルトラスト協会も関心を示してくれ、自生地の面積など基礎的なデータを知りたいとのことで、都市計画課から入手した図面を送付しました。



モンゴル蝶類調査報告

鈴木俊文

5月23日、鈴木俊文さんによる自然談話室を開催、「モンゴル蝶類調査報告」と題してお話ししていただきました。

2023年6月5日から16日迄の12日間、お仲間と4人でモンゴルの草原の蝶を調査されて来ました。

お話はモンゴルの蝶の話がメインでしたが、宿舎のゲル（伝統的な移動式住居）やテントでの生活について、供された食事の内容（とても美味しそう）、あるいは調査された周辺の花や樹木、小動物（キツネ、ジリス、イタチ等）や鳥（アカゲラ、カササギ、カモ、クロハゲワシ等）、色々な昆虫の写真も交えながら話していただきました。

蝶は多くが小型のもので、飛んでいるもの、とまっているもの、吸蜜・吸水しているもの等様々な姿の写真を示しながら、それぞれの蝶の生態などお話しいただきました。

12日間で53種類（鈴木さんは自身は49種類）の蝶を確認・同定されてきました。

モンゴルの花、植物の多くは日本と共通のものが多く、特に日本では高山で見られる植物を多く紹介いただきました。

鈴木さんは当会が毎年行っているアサギマダラのマーキングを指導して下さるだけでなく、ギフチョウやチャマダラセセリの保護活動を精



力的に行っていらっしゃいます。

今年も保護活動の予定が組まれていますので、おしらせします。

★ギフチョウ保全活動（下草刈り）

10月19日（土）清見町池本 西正寺

★チャマダラセセリ（下草刈り）

11月10日（日）高根町日和田

なお詳細は次号（95号）でお知らせします。

鈴木さんがモンゴルで撮られた写真のほんの一部を紹介します。



ダイオウベニシジミ



ゲルの中



カバイロシジミ



キバナコマツメ



カササギ

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に入会をおすすめください
・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第94号（深緑号）2024年7月7日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町4-218-3 飯田 洋

TEL : 0577-32-7206 ・ FAX : 0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/kuragane.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：松崎 茂

E-mail : ioauregihserimus@hidatakayama.ne.jp TEL : 0577-34-4703

表紙写真提供：小池 潜 印刷：山都印刷